

蜘蛛女のキス

KISS OF THE SPIDER WOMAN

製作 ■ デヴィッド・ワイズマン
監督 ■ ヘクトール・バベンコ
原作 ■ マヌエル・プイグ
(集英社刊)
脚本 ■ レナード・シュレーダー
撮影 ■ ラドルフォ・サンチェス

ウィリアム・ハート
ラウル・ジュリア
ソニア・ブラガ
ホセ・リュウゴイ
ミルトン・ゴンカルヴェス



銀の糸が二人をからめたその時、彼は彼の愛に応えはじめた。

- '85 カンヌ映画祭最優秀主演男優賞 (ウィリアム・ハート)
- '86 米アカデミー最優秀主演男優賞 (ウィリアム・ハート)
- '86 英アカデミー最優秀主演男優賞 (ウィリアム・ハート)



An HB Films LTD.A (SAC PAULO) Production
In association with SUGARLOAF FILMS, INC. (LOS ANGELES)

配給 ■ ヘラルド・エース / テラ・コーポレーション
■ 日本ヘラルド映画



蜘蛛女のキス

KISS OF THE SPIDER WOMAN 1985年/アメリカ・ブラジル合作

製作デヴィッド・ワイズマン/監督ヘクトール・バベンコ
原作マヌエル・プイグ(集英社刊)/撮影ロドルフォ・サンチェス/音楽ジョン・ネシュリング
出演ウィリアム・ハート/ラウル・ジュリア/ソニア・ブラガ
HB Films LTDA(SAO PAULO)/SUGARLOAF FILMS, INC.(Los Angeles) 作品
[配給]ヘラルド・エース/デラ・コーポレーション/日本ヘラルド映画



監房という閉ざされた空間で絡み合う二人の男の愛と憎しみ、そして夢……

小さな監房に収監された二人の囚人。モリーナは未成年者へのワイセツ幫助罪で逮捕された同性愛者。バレンティンは信念に燃える政治犯。この小さな世界はそのまま、現代における「対立」の概念の構図となる。体制と反体制、夢と現実、強さと弱さ、男と女、政治と非政治など。しかしこの一見対立と思えた二人の男が、モリーナが繰り返し語る甘美な空想物語「蜘蛛女」を媒介として、ゆるやかに寄り添ってゆくことになる。そして二人は愛で結ばれてゆく……

ウィリアム・ハート、カンヌ映画祭、米アカデミー、英アカデミーの最優秀主演男優賞受賞の栄光!

ノーギョウでもいから演じたいノという程の気合いの入れようが、ウィリアム・ハートにこの三冠王の名譽が与えられた。が、その影にはブラジル映画界の気鋭監督ヘクトール・バベンコのたぐいまれな演出力があつたことは言うまでもない。『ビショット』(80、ロカルノ映画祭グランプリ作品、ニューヨークとロスで映画批評家協会最優秀外国映画賞受賞)に続くこの作品は、世界中で待たれていた映画であり、85年7月にアメリカで公開されて以来、現在もおおロングランを続けている大ヒット作だ。

原作者マヌエル・プイグが描く異端の愛

「蜘蛛女のキス」の原作者マヌエル・プイグは、ガルシア・マルケスやボルヘスと共にラテンアメリカ文学を代表する作家。作品が自国で次々と発禁される亡命作家としても有名だ。この小説は彼の4作目にあたり「リタ・ヘイワースの背信」(68)、「赤き唇」(69)、「フェノスアイレス事件」(73)に次ぐ世界的にセンセーショナルな批評を巻き起こした問題小説である。

南アメリカのマリリン・モンロー「ソニア・ブラガの「蜘蛛女」

ブラジルの美人女優ソニア・ブラガは、モリーナが語るナチス映画の歌姫レニ・バレンティンが愛するマルタ、そして蜘蛛女の三役を見事に演じている。またバレンティン役のラウル・ジュリアは数々のトニー賞に輝くブロードウェイの名優であり、日本でも『ワン・フロム・ザ・ハート』で人気を得た。そして脚本はレナード・シュレイダー。練りに練られた脚本、緻密な演出による華麗な演技の集大成である。

(上映時間:1時間58分)

7月中旬より同時ロードショー
共通特別鑑賞券1200円絶賛発売中

●共通特別鑑賞券は、都内各プレイガイド、チケットセゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求め下さい。●グループ鑑賞のお申し込みは(株)メイジャーまで。
電話 03(541)2508
●自由席定員制・入替制(当日料金/一般1500円・学生1300円)

シネセゾン 渋谷

渋谷道玄坂 ザ・プライム6階 03(770)1721

連日	11:30	2:00	4:30	7:00
金・土は夜9:20よりレイトショーあり				

キネカ大森

国電大森駅東口 西友5階 03(762)6000

連日	11:30	2:00	4:30	7:00
土及び祝日前夜は夜9:20よりレイトショーあり				